

(書式1)【候補者用】

① 立候補者の 姓名と所属	小杉素子 静岡大学大学院工学領域
② 立候補の理由と 抱負 (400 字程度)	私はこれまで、社会心理学者として、人間のリスク認知や態度、リスクコミュニケーションに関する研究に取り組んできました。人間のリスクの感じ方の多様性と複雑性、リスク管理行動との関わりを理解し、学際的な視点からリスクコミュニケーションの理論と実践を繋げて社会的な課題解決への貢献を目指しています。 リスク学会が学会員間の多様な専門知識をリスクコミュニケーションの視点から統合し、社会とつながるハブとなる役割を果たすようになることを目指し、社会心理学の視点から貢献したいと考えています。情報提供にとどまらず、アウトリーチや市民参加の重要性を重視し、リスク学の多様な分野が連携して、リスクに対する包括的な理解と対応を促進したいと考えています。
③ 本学会における 活動歴	学会に入会以来、リスク認知やリスクコミュニケーションに関わる研究成果を（共著や共同発表含めて）学会や学会誌への投稿論文で発表してきました。2014 年から現在まで学会誌の編集委員を務めています。
④ 研究歴・職歴等 (100 字以内)	1998 年に北海道大学文学研究科博士後期課程を中退し電力中央研究所経済社会研究所に入所。在所中 2012 年に北海道大学で博士（文学）取得。2015 年に静岡大学に着任。

(書式2)【推薦者用】

① 推薦する候補者 名	小杉素子
② 推薦者の 姓名と所属	菅原慎悦 関西大学社会安全学部
③ 推薦理由 (400 字程度)	小杉氏は、社会心理学の観点から、リスク認知やコミュニケーションに関する研究に一貫して取り組んでいる。原子力発電や遺伝子組み換え食物などの先端科学技術を題材として、一般市民と専門家のリスク認知の違いとその背景要因の考察に加え、原子力専門家とバイオ専門家の間での認知の違いや、一般市民と専門家がそれぞれ「相手の認知をどのように認知（推測）しているか」についての調査・考察など、特色ある研究を多数実施してきた。加えて、茨城県東海村での原子力リスクに関するコミュニケーション活動や、静岡県での防災コミュニケーションなど、専門性を活かした社会的実践にも積極的に取り組んでいる。さらに、本学会では編集委員を約 10 年にわたって務めており、学会運営の面でも継続的に貢献を行っている。これらのことから、リスク学及びリスク学会の発展のために大きな貢献が期待される小杉氏を、理事候補者として強く推薦する。